增補
訓蒙圖彙大成
四

頭書増補訓蒙圖彙巻之五

身體

此部には耳目鼻口毛髪頭足のたぐひをすべて人の身のうへにある事なり

○頭 頂 顖 蟀谷 額 頬 輔車 頷 頸 結喉 このかみ 鬠 黒子 黒痣 皺 かほのしわ 首 同

○口 吻 唇 とりふくちのまき とあり唇はくちびる人中 はなのしたなりそ齶はあぎと

○目 眼は肝の臓のつかさどる所なり 睛 眸 眶 瞼 外眥 内眥 眵 翳 涙 雀目 近視 瞟眼

○耳は腎のつかさどる所也

頭 かしら
顖
額
蟀谷
頬
輔車
頷
頸
結喉

口 くち
目 め
上瞼
下瞼
外眥
内眥
眉 まゆ
歯 は
齒 牙

鼻 はな
耳 みゝ
輪廓
垂珠

輪廓ハみゝのまハり垂珠とハみゝ
たぶ耳门ハみゝのあな完
骨ハみゝのうしろ町聹ハみゝ
くそ聹耳ハみゝだれ聾ハ
みゝしひ
○鼻ハ肺のつかさどる所
なり頞ハはなすぢ鼻梁
同準ハはなさき皶鼻ハざ
くろはな嚔ハくさめ衄ハ
はなぢなり
○眉ハ年をみるところ眉壽
とハ睫
○歯ハ骨のあまり腎のつか
さどる所なり牙板歯齗
齒齲齒齦齗齒齒
○舌ハ釋名に舌ハ巻なり

舌 ぜつ した
髪 ほつ かみ
鬚 しゆ あごひげ
髭 し うはひげ
鬢 びん
毛 もう け
顱 ろ
骨 こつ ほね
筋 きん すぢ

食物を巻制して落さゞらしむ涎ハよだれ唾ハつばき心の臓これをつかさどる
○髪ハ頭髪なり胎髪ハうぶかみ髻ハもとゞりなり鬟ハみづら
○髭須ハ釈名に秀なり物成て秀へ人成て髭須生を髯ハほうひげ
○髭 字彙に髭ハ口上の毛を髭といふ下にあるを鬚といふ頬にあるを髯といふなり
○鬢ハ頬旁の髪也 鬢髩同 髻ハひんづら 蟬髩ハつと
○筋ハ絡脉なり肝の臓

のつゞきあるなり急とし
す 醋とのゑ筋ゆるぐ
○毛は血のあまりなり毫
同肺のつゞきあるなり
旋毛つし皮りも膚ふべえ
皴しわ
○顱は頭骨なり顱會也
頭のかしら髑髏はされかうべ
又脳はなづき
○骨は肉接なり骸同髓
かのあつき節なり
○腹 缺盆 胸 肋 鳩尾
臍 小腹 乳 肚 前陰 陰
莖 陰嚢 脂似あり
○背 項 肩 髃 胛 脢 腰
臁 髂 尻 臀 脊

手 て
肱 かひな
臂 ひぢ
肘 ひぢ
掌 たなごゝろ
腕 うで
脚 あし
腿 もゝ
膕 ひかゞみ
腓 こむら
内臁
跗 あしのこう
内踝
踵 きびす
蹠 あしのうら

○手 掌ハたなごゝろ腕ハただむきうで臂ハひぢ肘ハひぢまかり肱ハかひな

○脚 足同 胯ハまた 腿ハもゝ 膝ハひざ 脛ハはぎ 臁ハむかはぎ 膕ハひかゞみ 腓ハこむら 跗ハあしのかう 蹠ハあしのうら 踵ハきびす

○指 大指ハおやゆび 拇同 食指ハひとさしゆび 中指ハたけたかゆび又將指ともいふ 無名指ハべにつけゆび 小指ハこゆび又季指ともいふ

⊙拳ハ手を屈るかたちなり こぶしなり

○乳 説文ニ人および鳥子をうむを乳といふ獣を産以て嬭奶ともいふ同じ

拳 こぶし
指 ゆび
乳 ち
脾 よこし
肺系
心 こゝろ
脾系
肝系
腎系
肋 あばら
肺 ふく

○肋は釋名に肋は勒なり
五臓を撿勒するゆゑん也
かくるが○たとへば乃ゆ祢
あばらが○液腸胷なり
びふつれなり
○心は五臓のうちにして
一身の主なり胸のあひだ
にあり色あかし火なり
○肺は五臓のうちなり胸
のあひだにあり蓮花とろ
ひけるがくちのごとし
六葉両耳あり孔ありて
よく声をいだし痰を生
ず色白し金なり
○脾は五臓のうちなり土
なり食ふくろなり色黄

腎 ゆもと

肝 きも

包絡

膀胱

胃 ゑぶくろ

膽 い

なるを腹の中脘にあり
◯腎ハ五臓のうちなり
腰にあり水なり色くろ
し二ツあり卵のごとし左
にあるハ腎なり右にある
ハ命門なり
◯肝ハ五臓のうちなり
左のわきにあり木なり

臟腑

小腸

大腸

胞胎

胎衣なる

腦　髓海　至陰　通脊骶
喉通氣　咽通食　膻中
肺　肺　肺　肺　肺
心包　心
腎系　肝系　胃系　脾系
膈膜　脾　脂膜
肝　肝　肝　肝　肝　賁門　胃　幽門
膽　肝　腎　小腸　臍
大腸　闌門
命門　膀胱　丹田　直腸
尻　穀道　精道　溺道

色あをし七葉ある竈のかたちなり○膽ハ肝の臓の腑なり肝の下にあ
膽のかたちハ人いりも紙せずど○小腸ハ心の臓の腑なり色あかし小便
こゝまりつたへて膀胱にいたるなり○大腸ハ肺の臓の腑なり腰にあて
十六廻なり色しろしたゝまるといふハくまなり○胃ハ脾の臓の腑なり食
物ハ脾よりはこひて大腸にとゞくるくそぶくろなり○包絡ハ心包絡なり命門
の下右腎の上にあり心包絡といふその腑を三焦といふ○膀胱ハ腎の臓の腑
なりて小便ぶくろなり水分の穴にて水穀分利して穀ハ大腸へゆき水ハ膀胱
へゆくなり
○臓腑心肝腎肺脾を五臓といふ小腸大腸胃膀胱三焦膽を六腑と
いふ○胞胎のことなり　五臓論に曰一月ハ珠露のごとし二月ハ桃花のごと
し三月ハ男女わかる四月ハ形象そなはる五月ハ筋骨なる六月ハ毛髪生ず
七月ハその魂をあそばしむ児よく左の手をうごかす八月ハその魄をあそばしむ
児よく右の手をうごかす九月ハ三たび身を轉す十月ハ気をうくる事足

頭書増補訓蒙圖彙巻之六

衣服

此部にハ衣裳冠帯などきる物のたぐひあり

○冕ハ天子の冠なり十二旒有前にさがりたるハ玉をつらぬきしなり冕の旁に黈纊といふ物あり淫言を聞まじきためなり

○冠ハ貫なり髪を貫もの也と釈名に見へたり冠ハ首にある也元服ハ法制高四寸に似

○和冠ハ漆塗にして紗也髪をおさゆる物紙巾子といふうしろに立たる物也羅と云貫物を串といふ又簪ともいふ

○纓ハ冠のうしろにさぐる物也今燕尾といふ紗にて作る

冕 べん たまのかむり

唐冠

官品平冠

冠 かん

巾子

簪

串

かうぶり

緌

纓

○幞ハ後周武帝ハ作る
もろ〳〵の唐人のかふる也
幅巾を裁して四脚を出せる
○緌ハ左右耳とおかけるものなり
冠の紐なり頷の下に結ふもの
○巾ハ頭巾なりその製衣に
およそ方なる紙巾をもひ巻
なるを帽と云ともいへり
○帽ハ頭衣なり唐にハ上
官より下官にいたるまでも
帽をきる冠の下にきる物なり
○帽子ハ僧の冠なり佛會
法事のときにきるなり
○笏ハ手板なり天子ハ玉
諸侯ハ象牙大夫ハ魚須文
竹士ハ木に緇文をかざりてこれを
用ゆ官人のもちものなり
○烏帽ハ紙にてつくり漆ぬ

幞
幞頭
帽
唐巾
巾
笏
帽子
頭巾
木笏
牙笏
烏帽
ゑぼし

てゆくなり たれハ侍従なり
是を右府ハ五位已上これを
著を侍従以上ハ六条の緒に
位已下ハ紙の緒をもて結ぶ
○袞ハ天子の御衣裳なり
一に龍二に山三に華虫四に
火五に虎ゆゑ衣にある六に
藻七に粉米八に黼九に黻
ゆゑ裳にあり これを九章
の御衣といふ
○裳ハ上を衣と云ひ下を
裳といふ 裳衣の紋乃宗藻
粉米黼黻あり九章の内
なり天子御衣の裳なり
○珮ハ官人の腰におぶるもの
なり上に双衡あり衡の長
さ五寸ひろさ一寸下に双璜
あり璜のながさ三寸也 蠙

珮
とりの

袞

帯

裳
も

おび

珠とその間にはさむ
○帯は字のごとく玉佩を
はかぐめぐらすなり石帯
あり下帯あり掛帯あり
○袍はながぎぬ縕袢なり
今朝廷へ出仕のときゝる
服を袍といふ又下にきる衣
のきる服を縕袍といふ又
わたなきを素袍といふ
○衫は小襦なりまたならぶれん
袖端なきを衫衣といふ又
汗衫布衫偏衫あるを
類なり云服の下着なり
○袴も服衣なり又大口
袴あり襞積あるを倍り
上下とのふ上を襠といふ下
を袴といふ
○靴は革のくつなり又くつ

袴 はかま

袍 うへのきぬ

靴 くつ かはのくつ

衫 さん

あまをとちく石ふか靴李白
か殿上の靴これなり日本に
ては鞠乃靴こもなり官人
僧かどの鞠は異なり
○裾ハ衣裳のあとへさかる
ものなり俗にちびの尾と
いふなり
○裙ハ婦人のこしにまとふ裳
なりと君にたるべし唐土
もあつく染るをのふ萬裙と
いふなるを
○半臂ハ楽人の袍衣裳
なとにあり袍の下きみじ
かくして半臂いづるなり
ふつくるなり
○奴袴ハさし貫のことなり
禁中にて女中のきるハ
り色なり女のきるハ赤く

裾

半臂

裙

奴袴

をしるなり
○鈌掖ハ大臣の装束なり
又ハ䙨衣裳ともいふ又掖
鈌ハとろびそるもへるなく
○襟ハ衣乃経ふいふまし
爪なり内襟ハきてうひ外
襟ハうんぢひなるを
○袷ハころものくびなり領
とあり細領要領とも
も領ハ衣の名りぐびの事
にいふ
○布衣ハ狩衣よ紋なきを
いふ下官の服をるものなり
紋ある狩衣とハいひて五位
ある位のめさるく服なり
○袖ハ衣の袂なり長袖ハふ
つそで袪ハそでぐち
○袈裟衣ハ大衣七條五條也

鈌掖
襟
袖 そで
布衣
袷

と三衣といふ大衣ハ九條より二十五條にいたる僧衣なり

○直綴ハ僧服なりいにしへハ偏衫裙子と服をのちより上下縫合して直綴と名付るなり

○魚袋ハ官人の腰に帯るものなり公卿ハ金魚袋四品以下ハ銀魚袋なり

○革帯ハ公家衣冠装束の具なり金帯玉帯石帯角帯あり

○韈ハしたうづなり足袋とも單皮とも書なり又韈子ともいふ

○絡子ハ又掛子ともいふ又掛絡ともいふ俗にはあやまりて環と掛絡といふ

○幅巾ハ白きぬにてつくる深衣とともに緇布冠をきくあたまにつく冠上をつゝむ也唐の書（心衣ぞく）
○緇布冠ハくろききぬのにてつくるなり
○帨ハてのごひなり帨巾ともいふてのごひげを帨架といふ
○帕ハ紅絹にて額を抹といふひたひをわる帛ハふくさ也
帊衣包袱並同
○履ハ草を扉といふ麻を屩といふ皮を履といふされども木にてつくる
○被ハ寝衣なり俗に夜着といふ又睡襖ともいふ
又被襖

○毛裘ハ鹿又狐の皮にてつくる衣服なり寒氣をよくふせぐ異ハねかハく上人冬月これをきる

○深衣ハ儒者の是をきる衣服なり白き布にてつくる常も白し五采の糸をもつて常のへりをとる圓む又黒色にそむるもあ

○延衣ハ小児のよだれかけなり褘 延同

○裏脚ハ[illegible]脚絆なり裏脚ハ裏脚をよめり又脛巾 行纏 行縢ならびにはゞきとよむ

○幄ハ上下四方をとぢて帳のごとく宮室にかざるを幄といふ大ねの幕也

なるを物見るれと幄といふ周の世よりそうじまれり
○幕ハ周の世よりそうじまれるもの幅にして物をおゝふ幕といふ布十二端を二張として十二月を表し乳数九八と九ハ易の表をを
○幔ハ十二幅紋を染ず只竪幅ならみて上のよこ畫なし下のゆひまろ〳〵し纐纈ありし乳付へゆひまるくぐんぶまをもちあり
○座具ハ僧衣なり佛に礼をするにしくものなり三衣一鉢座具漉水嚢これを僧の六物といふ
○縁道縮ハ法事のときに容殿より堂へゆくに布をしく

と云もおなじ水ほどとするもあり
○夾衣ハ今云あはせなり袷
袷は一単衣ハひとへもの
褻衣ハふだんぎ　表裏
○帳ハ女のへやなどにたつる几帳
帷帳あり又紋帳 路帳 綿
幔 紙帳 幔あり
○褥ハしとねなり附具あり
蓐茵並同 蓐茵ハ草のしとね
しとねなり 褥ハ錦のしとねなり
俗よ蒲団と書ハ非なり
蒲団ハ座禅の類なり
○降緒ハ刀につける刀乃さ
げ緒といふ
○雨衣ハあまぎぬなり縲
襀とも云紙にてつくるを油
衣といふ毛織の類にて作る
を毡衣と云此等ハ異朝の

縁道絹

夾衣 あはせきぬ

降緒

帳

褥

毡衣なり
○浴衣ハゆかたびらなり又明衣とも書なり又ゆでのごひと浴巾といふ
○蔽膝ひざおほひともまへだれとあり韠同
○鞋ハ糸鞋麻鞋あり草鞋ハ蹻とも扉とも書べし
○屐ハ木履なり俗にあしだといふなり屐系と云又鼻縄といふ禅と云あり雪中にはくものなり
○嚢底あるを嚢といひ底なきを槖といふともいふふくろなり袋同
○道服ハ道者の衣服なり胴服とくいわしく俗にはをりといふ

頭書増補訓蒙圖彙巻之七

寶貨

此部ハ金銀珠玉銅鉄石甲錦繡綾羅をすべて一さいの寶をあつむ

○金ハ紫磨黄金沙金等どあり日本にてハむかし奥州より出る鍍金ハめきなり
○銀ハ白銀なり南鐐銀鋌などあり俗にしろかねと云又銀鈑といふもあり
○鉛ハ青金なり錫ハしろなまりと俗にすゞなまりと云白鑞同鉛をやいて丹となる
○鐵ハ黒金なり鉄同銕鐵ハかねの鏁同し鋼鐵ハはがね鏽ハさびなり日本ひろし

金 こがね
銅 あかがね
銀 しろかね
銭 ぜに
鉛 なまり
珠 たま
鐵 くろかね

は鑛中より出るなり
○銅は赤金なり黄銅鍮
石真鍮あり又紫銅は赤
き称なり褐銅同じ白銅
はさはりなり○紫金はまてく
ぞうとのふより出る
○説文に銭の字の旁上に
一の戈又下に一の戈の字を
銭は人とこゝろをあはせて人
さらにばとりの孔方青銅
鵝眼とかふ仮名の異名なり
○珠は海より出るたまと云珊
瑚珠真珠のさるひなり珍
珠蠙珠は貝の中より出る
魚虫蛇の孔にも珠あり
○玉は山より出るをたまあり
石の美なるものを玉といふ
璞はみかゝざるたまをいへる

砒 ひさん
硫黄 ゆのあか
玉 たま
璞
礬
砒霜
瑪瑙
硝 せう
牙硝
芒硝
硃 しゆ
朱砂
銀朱
磁石
玳瑁 たいまい

物なり唐崑崙山より
出るゆへいふとぞ
○礬は礬石なり和名たう
ばんといふ光明なるは明礬
といふ黒色なるを黒礬と
いふ緑色なるは緑礬といふ
焼て赤なるは絳礬といふ
○硃は朱砂なり辰州より出
る故辰砂といふ又水銀と化
しやく熱とする故銀朱といふ
朱砂は服こと過べからず慎め
神をやしなふ
○硫は石硫黄土硫黄あり附
木を発燭といふ硫黄の出る
ところ大かたかならず温湯あり
摂州有馬又加州の山中
なとのごとし
○硝は硝石なり朴硝に似る

硨磲
玻瓈
珊瑚
紗
瑠璃
琅玕
熨斗目
琥珀
砥
礪

焔硝ハ石と同しく火につく鉄炮にもちゆる薬
硝牙硝ハ薬石なり瘡との
ぼれ燥とろかし小便を
通ずる能あり
○礪ハ山の湯ヨ鐵と斉を
るものハ陰にあるなり礪石
あり二物ハ氣あひたるを
よく針をとるものなり
○砒ハ砒石なり大毒あり煉さ
るを砒霜と云人獣物乃
毒を消し瘡とふろ外科
の用ゆるなり斑猫と同
しく毒あり
○瑪瑙ハ玉なり七寶の内
なりこの玉ハ人馬の脳に似
たるよろくる脳をかづく名
義なり

にしき 錦
加賀絹
綾
綃
縠 ちりめん
繡 ぬいもの
絨 びろうど
繻子
緞 どんす
繻珍
紅深

○硨磲ハ玉の名七寶の一ツ也
石の玉にゝたるなり一名海
扇和名いたやがい
○玳瑁ハ亀の名甲に文あり
器に作るべし櫛簪香
合などにつくる
○瑠璃ハ玉の名石のひかり
あをくのひかり紺青の如くあり
ごとくあるし
○琥珀ハ松脂地におちて
千年にして琥珀となる能
塵をすふ玉なり色黄也
○玻瓈ハ玉の名七寶一ツ也
西國の玉なり頗梨とも
かく也し
○琅玕ハ玉のひかりあかりの
如く崑崙山に琅玕樹有
實のごとし

○珊瑚ハ海中の珠なりいろあり鐵網をもつて是をとる七寶の一つなり
○砥ハ細砺石なり研とも書べし黄砥ハあハせどなり
○礪ハ麁砺石なりあらとなり礱ともかくべし
○紗ハ金紗銀紗紋紗紗等ありうすきものなり又法螺漏などいふ居子といふもの也
○熨斗目ハ筋あり絵紗也祝義に侍のきる服なるを又能役者などもきるなり
○錦ハ五色の糸を織て錦とも俗ふいふ金襴の類也
○繍ハ五采の刺文なるをぬいもの
○絨ハ細毛布なりその類多

ろ加紙天鵞絨これハ褐子氆氌兜羅綿みな毛布なり

○紅染ハ紅なり紅梅緋桃色中紅茜染どありたれわり染なり

○加賀絹ハ加州小松よりおさめて上絹なり

○縠ハ縐紗なり今ハちりめんの俗ふ縮緬とく

○繻子ハ五色五彩もあり

○繻珍ハ五色あり繒紙わうく織なり

○綾ハあやなり又綾子ハ花綾ハ紋綾子なり光綾ハぬめ綾子なりと

○絹ハもとしなり生絹と書べし熟絹ハねりぎぬ

白粉

温石

滑石

石膽

麒麟血

幣

鼈甲

木綿襷

浮石

○緞ハ段子なり花段錦段毛段金段あり
○綃ハ加州より出丹後よりいづる縑ハかとりぎぬなりきさかとも云なり
○線ハよるいとなりいととじとよむ綫同漢の宮女冬至の日より日かげくわりて一線のながきをそへるといふを
○絲ハいとなり蠶のはくでかなを緒ハいとぐち類ハふし縷ハいとすぢ經ハたて緯ハぬき麻苧紵まを纑ハうミそ
○條ハくみひもなり褊と組といふ圓と紃といふ
○綿ハまミ蠶とりてとろ精を綿といひ麁を絮と云

海鹽

石灰

綿ハゆるきし絹ハ本まきなり○八丈ハ日本八丈が嶋よりおるによつてぞ公方様へ
貢にそなふるなり外にハ丈嶋といふハみなにせものなるよし○纏ハむしろ
なり毛纏あり線纏あり花纏あり毛纏のもくまなるハ山水といふ○金薄ハ
金をうすくのべたる物なれバ薄といふなり薄ハうすしといふ心銀網の薄ハ蔵
ほど○水銀ハ性寒なり毒あり馬歯莧にも水銀あるを又汞とも書丹砂よりを
いづるなり○高麗織ハ京西陣よりもいでくるを○皮ハけものゝ皮に毛あるときを
の名なり虎皮 豹皮 熊皮 狐皮 麑皮などなり○華ハけもりの皮なり毛をとる
を華といふ生なりのを熟するハ韋といふなめしたるなり○鐵線ハはりがね
なり銅線ハあかゞねのはりがね又銅絲ともいふなり○水精ころとをたまなり水中の石乃髪
なる物なりといふ水晶同し又硝子もみづとろをだまなりびいどろなり○緑青ハ石緑とも
いふ銅のさびなり銅緑ともいふ水飛して畫工采の具とするを○火精ひうちのなり火
齊同この次をとりて灸をもちまするハ虚熱とさるを○雲母ハきらゝ也 廬山の中よりいづる
五色あり白きものよし服する事十年をすまれハ雲氣つねにその上におほふ○膏薬
にねる又地紙にぬる○白粉おしろいハ鉛粉なり鉛をむさしてつくるものなり
又銀粉ハはらや粉霜ハやさうくし白粉ハ蕭史といふ人つくりはじめて秦穆公のむ
すめ弄玉にぬらせしをなり○石膽たんばんハ銅ある所より出煎し煉てなる石中

のけあり膽礬あり○浮石ハ水花ともいふ水のあわ化して浮石となる
西國よりいづる○溫石ハ一名烏滑石といふ和漢ともにあり硫黄のある山より出る
る正眞なり火にあたゝめて熨とすればよく癇疾をいやし瘀血を散ず
○滑石ハかたきをとゝめにてくだんとつくりし油のもののしみたるに滑石をふりかけるべ
油けとれて白色なる物よし○鼈魚甲たいまい也鼈魚ハ海中の大かめなり甲をもて
うちくをければ斑文いづるこれを櫛笄香盒などのうつは物につくる玳瑁といふ
も同じ又薬に用也○麒麟血ハ麒麟の血なるといへども麒麟といふけだもの
つくりのにあらずと馬血なり血とあふよし○幣帛ハゆふして贄ともいふ書葉にて
をるハ白和幣といふ麻にてをるハ青和幣といふ串をもつてまつる神
奠稜の具たりてにぐるといふ義訓なり○木綿襷ハ幣帛をとる時ゆふ
るくるなり木綿の名をひがめりゆふハ楮の皮にてつくる幣帛を白木
綿といふ○海鹽しほハ食鹽なり海中の潮をくんで竈にて鹽とし賢に入
て鹵をとるを鹵といふ鹵垢ハしほあか塩盤ハしほがま○石灰ハ火にかけて石を
やきて灰となるを毒あるゆへ一切の腫物を治すまた白堊にして壁をぬる

頭書増補訓蒙圖彙巻之八

器用

此部は武具農具そのほか日用のうつはものをあつむ

○紙は楮の木にてつくる後漢の蔡敬仲といふ人始てこれをつくるむかしは帛に物かきしゆへに紙といふ字糸偏をつける

○筆は秦の蒙恬といふ人つくりはじむと有り蒙恬此功によつて管城といふ所に封ぜらるよつて筆の異名を管城子といふ

○硯は黄帝玉紙を以て

ちぢめてたゝみあふぎといふ
○墨は煤に膠を合てつくる油煙松煙あり子路といふ人つくりはじむといふ
○書はむかしは竹をわりて小刀にて彫付てこれを書とをよろて巻とも冊とも云
○裱は裱紙なり書のうへ紙なり標同簽は外題也
○畫は繪なり采なるを紙繪といふ唐にては舜擧日本にては雪舟今は狩野家其外名人あり
○帖は書のうは包なり袠同じく文巻文匣あり又書をとぢて帖とするへ

○璽ハ王者の印なり玉をもつてこれを作る庶人ハ金石にてつくる
○扇ハ舜つくりはじめたまふ武王これをつくりはじむともいへり日本にてハ神功皇后三韓征伐のとき蝙蝠の羽を見てこれをつくるといふ
○尺ハ粟より生ず十粟を分とし十分を寸とし十寸を尺とす又人ハ人の躰をもつてはかる指を寸とし手を尺とし肘をのべて尋とする尋ハ八尺なり
○簿ハ手板なり事を書しるすものなり簿書簿

籍ともいふ今いふ帳なり
○暦ハ黄帝つくりたまふとも
いふ又容成つくるとも又羲
和はじめつくるともいへり
○符ハ符契符信といふ
わりふなり竹ながさ六寸にし
て分て和合し信とす又木
にてもつくるなり
○几ハ今いふはしゐなりまた
脇息なり憑几なり又机とも
かくる
○筭ハ長さ六寸暦数に
もちゆるものなり黄帝
の臣隷首算数をはじむる
筭ハおやまりなり算に通ず
○蠟燭ハ蠟に油をいれて採

て竹の筒に入てもの燭とす
銀蝋燭あり朱蝋燭あり
○如意ハ木竹又象牙玳瑁
などにてつくる物也ことを
侍きしるし小書付るにもつ
物なり文殊のもち物なり
○翳ハ天子のうしろにかざる
物なり女嬬の役なり
○拂塵ハちりはらひなり禅家
にハ拂子といふ揮指する具
なり塵の尾白熊にて作る
○案ハ今いふ几なりふづくゑ
又卓ともいふ几案ともいふ
○鐘ハしやうの○ハ十二調子の中
黄鐘の調子とうしとをよ
つて鐘といふ

○箎ハ遂同洋武帝の時き
丘仲といふものつくれりと
云日本にてハ天の香久
山の竹にてつくれる
○鐸ハ金鐸ハ金鈴金舌也
軍法にこれを用ゆ木鐸ハ
金鈴木舌なり文教に用ゆ
○鈴ハ風鈴なり一名簷鈴
といふ○鈴子ハとぐなり一名を
圓鈴といふ
○鈸ハ僧具なり銅鈸子ハ土
柏子なり南齊の穆七素
といふ人はじまり
○簫ハ高麗笛なりふくに
とのぞいて六の穴あり又穴三
ツあるもあり

磬
石磬
銅磬
律
づゞけ
琴 こと
瑟
箏 さうのこと
塤
鼗鼓
ふり
はぐこ

○鼓ハ大鼓なり楽器なり
○柷ハ木音なり中に柄を
こまぬかうとして左右にうち
はじめて楽をおこすものなり
○鉦ハ小鐘なり楽器なを
鼓を節し鼓を止るものなり
なり鐘鼓となづく
○簫ハ楽器なり小竹管を
ならべてつくる鳳凰の翼にかた
どる大なるハ二十三管長さ
尺四寸小なるハ十六管長さ
尺二寸なり
○笙ハ女媧これをつくる大
笙ハ十九簧小笙ハ十三簧
○磬ハ毋句氏のつくりはじめ
たるものなり石磬あり銅

磬あり磬をかくるものを簨簴といへ
○律ハ樂器なり陽律六陰律六合て十二律なり六律六呂ともいへ黄帝始て作る
○琴ハむかしハ五十絃あり後ニ二十五絃となる今ハ十三絃あるも日本にてハ天の香弓をならべ絃をかけならしそめし
○瑟ハ絃数多かあり大瑟ハ五十絃なりと舜これを作といふ樂器なり大なるを瑟といふ小なるハ琴といふ
○箏ハ秦の蒙恬つくり出せり長一尺八絃十三絃柱の

鞨鼓

軫

琴軫

つめ

腰鼓

銅鉢

琵琶の軫

銅鑼

桴

鞨鼓桴

大鼓桴

ひろさ三寸十二三三の三絃を
斗烏巾といふ
○塤ハ土をやいてこれをつく
る六の孔ありてこれを吹て
楽器なり
○鼗ハ鞉と同じ楽器也
一名を揺鼓といふなりつゞミ
○篳篥ハ一名笳管と云
楽器なり胡人ふいて馬を
おどろかす
○敔ハ木虎なりせなかに
ひちりきのごとき木を以
てこれをすりて楽をやむ
るなりさゝらなり竹を
破てもこしらゆるなり
○琵琶ハ長三尺五寸四絃也

假面
まひのおもて

雲版

嗩吶

喇叭

銅角

喇叭

下よりも逆鼓を琵といふ上より順鼓を琶といふ一名胡琴漢の王昭君ひけり
○阮咸は四絃十柱あるもの五絃十三柱あり月琴同
○三絃は三味線なり三絃子といふ琉球國より渡りし樂器といふ
○撥は琵琶の撥三絃の撥羯鼓の撥となかくちもちがひ文字もちがひあり 揆同
○柱は琵琶などは柱といふ琴にてはことぢといふなりもちがひあり
○軫は琴軫轉手なり琵琶三味線などのもあり

○抱ハ太鼓のばちなり桴
とも書べし棙撥ハ琵琶の
撥又三味線の撥なり
○繫爪ハことのつめなりけ
つめといふ義甲假甲なら
びに同し
○銅鈸ハ僧家にハ磬といふ
きんハ唐音なり
○羯鼓ハ樂器なり唐の玄
宗よくうちて花を催を
○腰鼓ハ腰前にさしはさむ
ほどなるもの鼓を指鼓
といふ
○銅鑼ハ今いふさふらなる
樂器なり一説に臍ある鉦と
いふり

鞠 まり

壓尺 けさん

水滴

水中丞

爪杖 まごのて

硯屏

筆架

書鎮

○假面ハ今いふ舞の面なり代面とも戯面ともいふ能又ハ樂に着るなり

○雲版ハちやうばんなり飯齊の時大衆をあつむるときうつものなり

○嗩吶ハ太平簫といふふえなり嗩哪鎖嗦なども同

○喇叭。銅角とも小唐人ぶえなり又唐音にてちやるめらといふ

○風鐸ハ寳鐸なり又ハ檐鐸ともいふ堂の檐にあり

○碁ハ帝堯つくり始めひて子の丹朱におしへ給ふなり黒白の石ハ晝夜にかたどり

ひぢやうぎ

界方（けいはう）

眼鏡（がんきやう） めがね

燭臺（しよくだい）

燭奴（しよくど）

燈檠（とうけい）

燈（とう） ともしび

燭剪（しよくせん） ちんきり

油瓶（ゆへい） あぶらがめ

三百六十ハ日の数を表する
からなり碁いしを碁子といふ
碁笥を碁奩といふ
○枰ハ碁盤なりまた碁局
ともいふ碁盤の目を路と云
碁石を子といふ碁笥を
奩といふ
○六采ハ双六なり黒白の石
ハ昼夜なり十二の目ハ十二月
なり盤を局といふ
○簺ハ日月の二ツに表を四
角ハ四方にかたどる骰子を
筒なり投子同
○象碁ハ周公旦作出て成王に
教へたまふなり大中小の象碁あり
又摩訶陀象戯といふもあり

燈籠 とうろう

方燈 あんどう

挑燈 ちやうちん

提燈 ちやうちん

烟火 はなび

拍板 びんざさら

○鞦ハ蚩尤が頭をかたどりて蹴なり飛鳥井どのこの家なり地下にハ左近と云ものあり

○硯屏ハ硯のむかふにたつる屏風なり硯の墨を風にかわきまじきため又塵ふせぐためなり

○書鎮ハ風ふくところに書をおさへるなり文鎮とも壓書とも云

○壓尺ハ卦算なり具足の草摺を卦算といふゆゑちにてハまたハ卦算といふ

○水滴ハみづいれハ硯のみづいれなり玉蟾蜍ともいふ蟾蜍

香爐

香鴨

香冑

香獅

香毬

香案

香盒

線香

筯瓶

のうちにつくる水いれ也
又硯滴ともいふ
○爪杖ハ搔杖ともいふ麻
姑といふ仙女の手爲の爪
のおそしよりて麻姑の手
○筆架ハ筆をさせおり
筆格筆牀筆山とも云
○界方ハ今いふ樋定大
なるも
○眼鏡ハめがねなり靉靆
ともかくなり
○燭臺ハ蝋燭をそなへる又
燭架ともいふかくちさぬぐ
るもあり
○燭奴ハらうそくそこに人
形あるないふなり

薫籠 ふせご
毬杖
投壺
空鐘
佩香
香餅 たどん

○燈ハ灯同し燈盞ハわぶらつき燈心ハ燈炷ともいふ

○燈花ハちやうじがしら

○燈檠ハ長檠あり短檠あり又灯臺といふもありまた灯架といふ

○燭剪ハ今いふしんきり也

○油瓶ハ今いふあぶらさしなり又油注ともいふ

○燈籠ハ燭篭とも灯毬とももいふ又灯篝ともいふ

○挑燈ハ丸を俗に酸漿挑灯といふ紗にて張る紙紗篭といふ

○方燈ハ今いふ行燈なり四方なるを方燈といふ紗やそ

爆竹 さぎちやう

紙鳶 いかのぼり

風車 かざぐるま

木偶 にんぎやう

竹馬 たけうま

陀螺

ちやうちん紗籠といふ○提燈ハ今いふ挑灯なり懸火ともいふ○烟火ハはなびなり花炮ともいふ地䍱花兒流星走線などの名あり○柏板ハ今いふびんざさらなり又拍子ともいふ○香爐ハ薰爐ともいふ又ハ香鼎香斫香猊香鴨などの名ありかたちによつて名のかはるなり香毬ハ俗にまはり香炉○香毬ハてまりのごとくなる炉にてまはり香炉あり鴨のかたちにつくりたる炉香鴨といふ○香盒ハ香ばこなり漆盒磁盒および金銀銅錫などにてつくる○香案ハ今いふ卓なり又ハ香几といふ○線香ハ線ハいとともよむいとすぢのごとくなる香なり炷香ともいふなり南京よりきたる○筯瓶ハひばしたてるなり火筯ハこぢといふ火筯ハさしくべるものなり○薰籠ハ今いふふせごなり又火篭とも夜篝ともいふ○佩香ハ今いふにほひのたまなり腰にさぐるものなり香囊ハにほひぶくろ○毬杖ハ虫尨がかんにさくるとて正月にうつなり毬春ともいふ○空鐘ハこまなり獨樂ともいふ小児のもてあそびものなり○香餅ハ今いふ炭團なり又ハ炭餅ともいふ火いけなり又炭墼とも炭麟ともいふ○投壷ハむかしの射法なり壷に矢をなげいるゝ事なり○爆竹ハ竹の火にいるゝ音のこゑをきゝて疫鬼おそるゝよつて名のあるなり爆竹をいふなり又天竺より中國へ佛經をわたし也仏佛經と道經を右にとさ火をかけまで佛經やけざりしとてたの義長とうして左義長ともいふ

○作馬(たけむま)はわらんべのたけむまなりいにしへはこれとさのあそとす竹馬(ちくば)のはしらかなり
○紙鳶(しえん)はいかのぼりなり紙鵄(しし)風鳶(ふうえん)ともいふ又あるは紙風箏(ふうさう)といふ○木偶(もくぐう)は木(き)にてつくりたる人形(にんぎやう)をいふ土(つち)にてつくりたるは土偶人(どくうじん)といふ紙(かみ)にてつくりたるは紙偶人(しぐうじん)といふ
○風車(ふうしや)はかざぐるまなり○陀螺(だら)はいまいふぶちごまなり江戸(ゑど)の小児(せうに)のもてあそぶもの也